



安全データシート (SDS)

1. 製品および会社情報

製品名 : クリントールT
製品の種類 : クリーンダッシュ専用洗浄液
会社名 : テクノロール株式会社
所在地 : 〒594-1144 大阪府和泉市テクノステ-ジ3-4-5
担当部門 : ケミカル技術部
電話番号 : 0725(53)3933
FAX 番号 : 0725(53)3922
E-Mail : info@technoroll.co.jp
管理番号 : No. MD-CTT01

2. 危険有害性の要約

<GHS分類>

物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	急性毒性(吸入;蒸気)	区分4
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)

*記載のないものは「区分に該当しない」、又は「分類できない」

<国/地域情報> なし

<GHSラベル要素>

絵表示



注意喚起語
危険有害性情報



危険
引火性液体及び蒸気 (H226)
重篤な眼の損傷 (H318)
吸入すると有害 (H332)
呼吸器への刺激のおそれ (H335)
眠気又はめまいのおそれ (H336)
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い (H361)

<注意書き>

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。 (P201)
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 (P202)
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。 (P210)
容器を密閉しておくこと。 (P233)
容器を接地すること/アースをとること。 (P240)
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。 (P241)
火災を発生させない工具を使用すること。 (P242)
静電気放電に対する予防措置を講ずること。 (P243)
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレ-の吸入を避けること。 (P261)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 (P271)

応急措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 (P280)
皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 (P303+P361+P353)
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること(P304+P340)
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受けること。(P308+P313)

- ただちに医師に連絡すること。 (P310)
 気分が悪いときは、医師に連絡すること。 (P312)
 火災の場合：消火するために粉末消火剤、泡消火剤を使用すること。 (P370+P378)
 保管 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 (P403+P233)
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 (P403+P235)
 施錠して保管すること。 (P405)
 廃棄 内容物／容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。 (P501)

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物			
化学名／成分	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	含有率(wt%)
アルコール系溶剤	—	—	—	55 ～ 65
グリコール系溶剤	—	—	—	1 ～ 10
炭化水素系溶剤	—	—	—	25 ～ 35

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。皮膚を速やかに多量の水と石鹸で洗浄すること。
 皮膚刺激が生じた場合や気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
 眼に入った場合 : 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合や気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。
 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。吐かせないこと。医師の診断、手当てを受けること。
 最も重要な急性と発症の遅い症状影響 : めまい、頭痛、吐き気。
 応急処置をする者の保護 : 救助者は状況に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 小火災：粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤。
 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤。
 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
 特有の消火方法 : 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。加熱により容器が爆発するおそれがある。引火性の高い液体及び蒸気である。
 火災時の特有危険有害性 : 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。
 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。風上から消火する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業者は適切な保護具（8. 曝露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立ち入りを禁止する。
 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不透性の保護衣を着用する。
 風上に留まる。
 低地から離れる。密閉された場所に入る前に換気する。
 環境に対する注意事項 : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
 環境中に放出してはならない。

- 封じ込め及び浄化の方法及び
機材 : 危険でなければ漏れを止める。
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
- 回収、中和 : 少量の場合
乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で
廃棄処理する。吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合
盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出
来ないおそれがある。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。関係箇所に通報し応援
を求める。

7. 取扱および保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 電気設備及び工具は防爆型の物を使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。一禁煙。
『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実に行う。
- 局所排気・全体排気 : 『8. 曝露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
液の漏洩や蒸気の発散を極力防止する。
- 安全取扱注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。眼への刺激性があるので眼に
触れないようにする。
眠気又はめまい、呼吸器の刺激、器官の損傷のおそれがあるので、本製品に接触、
吸入、飲み込みをしてはならない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはなら
ない。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。この製品を使用する時に、飲食又は喫
煙をしないこと。
眼に入れないこと。接触、吸入又は飲み込まないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

保管

- 安全な保管条件 : 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、
かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
保管場所の床は適当な傾斜をつけ、かつ、適当な溜升を設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備
を設ける。
- 保管条件 : 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。
冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。酸化剤から離して保管する。
容器は直射日光や火気を避けること。
容器を密閉して換気の良いところで貯蔵すること。
指定数量1/5以上の量は危険物貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。施
錠して貯蔵すること。
- 安全な容器包装材料
混触禁止物質 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

8. 曝露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 未設定
- 許容濃度 : 100 ppm (ACGIH (2009) TLV-TWA、n-プロピルアルコール)
- 設備対策 : 防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

空気中の濃度を曝露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
 「火気厳禁」、「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。
 安全管理のため状況に応じて、ガス検知器等を設置する。

- 保護具
- 呼吸器用保護具 : 状況に応じて有機ガス用防毒マスクを着用する
 - 手の保護具 : ゴム製保護手袋
 - 眼の保護具 : ゴーグル型保護眼鏡
 - 皮膚及び身体の保護具 : 状況に応じて保護長靴、保護服、保護前掛けを着用する。
 - 適切な衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 形状 : 液体
- 色 : 無色透明
- 臭い : アルコール臭
- 沸点 (初留点) : 97°C
- 引火点 : 23.5°C (タグ密閉式)
- 発火点 : データなし
- 比重 : 0.78 ~ 0.80 (20°C)
- 爆発限界 : 下限 1.6 vol %、上限 : 10.7 vol %
- 可燃性 : あり
- 溶媒に対する溶解性 : 水に不溶

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の条件下では安定である。
- 反応性 : 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。空気や紫外線と接触すると、爆発性過酸化物を生成する事がある。
- 避けるべき条件 : 加熱、高温
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素

11. 有害性情報

- 急性毒性 (吸入 : 蒸気) : ATEmix が 2500 < 計算値 ≤ 20000ppm のため、区分4に該当。
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1の成分合計が60%であり、≥3%のため、区分1に該当。
- 生殖毒性・授乳影響 : 区分2の成分合計が60%であり、≥3%のため、区分2に該当。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)の成分合計が60%であり、濃度限界(20%)以上のため、区分3(気道刺激性)に該当する。
 区分3(麻酔作用)の成分合計が67.5%であり、濃度限界(20%)以上のため、区分3(麻酔作用)に該当する。

12. 環境影響情報

製品としての有害情報なし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
 都道府県知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

- 国際規制
- 海上輸送 : IMO、IMDG の規定に従う。
- 航空輸送 : ICAO/IATA の規定に従う。

国連番号	: 1993
品名	: その他引火性液体 (他の危険性を有しないもの)
等級	: 3
容器等級	: II
国内規制	
陸上輸送	: 消防法の規定に従う。
海上輸送	: 船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	: 航空法の規定に従う。
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法令	
危険物	: 施行令別表第1第4号「危険物・引火性のもの」 混合物
通知対象物質	: 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9） n-プロピルアルコール、プロピレングリコールモノメチルエーテル
表示対象物質	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9） n-プロピルアルコール、プロピレングリコールモノメチルエーテル
有機溶剤中毒予防規則	: 非該当
消防法	: 第4類第二石油類 非水溶性液体 危険等級II (指定数量：1000L)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 制度)	: 非該当
船舶安全法	: 引火性液体類
航空法	: 引火性液体

1 6. その他の情報

荷姿	: 18L 金属缶入り
注釈	: この製品データは一般的な情報および経験に基づき得られたものですが、本製品のもつ特性に関する品質保証を意味するものではありません。危険、有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取扱いには充分注意して下さい。また、記載事項は当製品についての通常取扱いを対象としたものであり、それ以外についてはご使用者の責任において安全対策を実施の上、お取り扱い願います。 本 SDS は JIS Z7252 / 7253 : 2019 に準拠して作成しています。